

▷ Q&A.

Q: なぜ、いま、「arc 世界連邦政府憲法」を作成しようと思ったのでしょうか。

A: それは、「世界連邦政府」が単なる理想ではなく、本当に必要とする時代になったと私たちが考えたからです。現在私たち人類が抱えている大きな問題（地球温暖化、通貨危機、宗教対立、核問題、貧困問題、テロ、食料危機など）は、各国でとても深刻な状況です。早急に国境を超えて取り組まなければ解決できない問題ばかりです。私たちは、「世界連邦政府憲法」を作成してみることが、その解決方法として最善ではないかと考えました。

Q: ところで「世界連邦政府」という概念は、古くは、イタリアの詩人ダンテや、カントなどヨーロッパの思想家・哲学者による「世界国家案」がありますが。

A: そうですね。先人たちの構想は尊いものですし、理念としては参考になります。が、世界の状況は当時と今では大きく変わりました。世界といっても当時は「ヨーロッパ」という範囲でした。この「arc 世界連邦政府憲法」は、あくまで現在の世界状況を踏まえて作成されました。

Q: それでは、第二次世界大戦後に構想された「世界連邦運動」の理念はどうでしょうか。アインシュタイン、湯川秀樹など、世界的に著名な科学者たちも「核戦争による人類全滅を避けるために、世界連邦の樹立をすべき」と、この運動に賛同していますが…。

A: この運動は、第二次世界大戦後に設立された「国際連合」では、戦争の抑止力の低いことを痛感したアインシュタインなど、世界の科学者・文化人たちが、「国際連合」より強力な「世界連邦政府」を構想し、何とかこの世界から戦争を無くそうと始めました。「arc 世界連邦政府憲法」もこの理念を踏襲しています。そして、1946年、ルクセンブルクにおいて

「世界連邦政府のための世界運動」が組織されたことがきっかけとなり、次の年の1947年には「モントルー宣言」が運動の基本原則とされました。以下の6つがその原則です。1. 全世界の諸国、諸民族を全部加盟させる。2. 世界的に共通な問題については、各国家の主権の一部を世界連邦政府に委譲する。3. 世界連邦法は「国家」に対してではなく、1人1人の「個人」を対象として適用される。4. 各国の軍備は全廃し、世界警察軍を設置する。5. 原子力は世界連邦政府のみが所有し、管理する。6. 世界連邦の経費は各国政府の供出ではなく、個人からの税金でまかなう。

Q: 「世界連邦運動」は、日本ではどのようなになっているのでしょうか。

A: 日本では第二次世界大戦直後に尾崎行雄ら有志の議員が「世界連邦建設に関する決議案」を国会に提出し、1948年「世界連邦建設同盟」が結成され、尾崎行雄が会長に、賀川豊彦が副会長となって活動を開始しました。しかし、発足当時は同好者の集まりのように考えられていました。当時のジャーナリズムも「空想的だ」などと批判し、この運動をほとんど取り上げなかったそうです。そのような状況の中、1955年11月11日、当時の平凡社社長の下中弥三郎が「世界連邦建設同盟」の別働隊として「世界平和アピール七人委員会」を創設しました。

Q: 「世界連邦建設同盟」はその後どうなったのですか。

A: 「世界連邦運動協会」と名を変えて、全国に組織を持ち地道な活動を続けています。2005年8月2日、国会（衆議院）決議として、戦後60年決議文中に「…世界連邦実現への道の探究など…」と「世界連邦」という言葉が盛り込まれましたが、これも彼等の地道な活動の結果だ

–p141–143

世界連邦政府のQ&A

–p144–157

arc 世界連邦政府憲法 試案

▷ Q&A.

また、私たちの考える「世界連邦政府」は、「主権は一人一人にある」ので、アイデンティティが「地球という故郷に生きる私」という、新たな発想に変わるかもしれませんね。

第二次世界大戦後、「世界連邦」という概念に、大きな影響を与えた、米国のジャーナリスト、エミリー・リーブズの『平和の解剖』には、「主権国家体制がある限り、戦争はこの地上からなくならない」（趣意）とあり、戦争回避の1つの理念として「主権国家体制」超克の提言がなされていました。しかし、今日までその提言は残念ながら実現されてはいませんでした。

Q: 何故その提言は実現されなかったのでしょうか？

A: それは、各国が自国の利益に最大の比重を置いた「主権国家主義」という現在の枠組みを乗り越えられなかったからです。この現状を打開するための運動が、これまで述べてきたように、戦後、世界的に続けられてきたのですが、今、「各国の利益」を乗り越えなければ解決不可能な問題が表面化してきて、初めて各国がその解決策を真剣に考え始めました。その1つの方法としてこれからは「世界連邦」とか「世界連邦政府憲法」の具体的な取り組みが、いままで以上に活発に起こってくることを私たちは願っています。そこで無謀を承知で、「arc世界連邦政府憲法 試案」にチャレンジしたのです。

Q: 「主権国家主義」を乗り越えるってかなり難題だと思いますが。

A: 芸術家を考えると分かりやすいかもしれませんね。例えばジョンレノンの「イマジジン」は、まさに、国境を超えて世界をひとつのものとしてイメージしています。それは、地球を細かく区切る国境線

の否定や、国家同士の対立で不幸に見舞われた人々の叫びを背景にして、「どのようにしたらこの地上で人々が幸福に生きることができるか」を問いかけている。

Q: 確かに、宇宙から見れば、地球のどこにも「国境」という線引きはされていないし、そもそも国境は「人」がつくったものですからね。世界中の叡智と強いリーダーシップを集めれば「国家」という枠組みを超克できるかもしれませんね。

A: この「arc世界連邦政府憲法 試案」を作成するに当たっては、「日本国憲法」にある人類共通の理念始め、「国連憲章」、第二次世界大戦後に構想された「世界憲法予備草案」（シカゴ草案）などの理想と理念を念頭に置きました。これら共通の理想の実現にはまず「主権国家」という枠組みを取り払う大きな勇気が必要だと痛感しました。今、世界のリーダーであるアメリカが大きく「チェンジ」に挑戦し始めていますが、世界中の叡智を集めて「国家」という枠組みを、例えば「地球温暖化」などの具体的な問題を通して乗り越えられるかもしれませんね。

Q: そうですね。そのようなグローバルな難問を解決する過程のなかで、「世界連邦政府」を考えていくことが、もはや夢物語ではない時代になってきたのですね。

A: 最後に申し上げたいのは、この「arc世界連邦政府憲法 試案」は、決して完全なものを目指して作成されたわけではありません。むしろこの憲法試案が理想を実現するための議論の叩き台なることを願っています。そして、この地球上に暮らす一人一人が、人類の未来のために勇気を持って新たな世界の構築にチャレンジして欲しいのです。

▷ Q&A.

と思います。このような流れからも「世界連邦政府」への気運は、時代の必然性と相まっていよいよ高まるのではないかと思います。「世界連邦運動協会」では、2025年ごろには「世界連邦実現」とのロードマップまでできているようです。

Q: 今年は2009年なので、16年後ですね。今年の国連気候変動サミットでは、鳩山首相が「90年比25%削減」と宣言し、世界規模で早急に取り組まなければならない地球環境問題の解決への決意を示しましたね。

A: そうですね、価値ある提言でした。しかし、国境を超えて取り組まなくては解決が見出せない問題は他にもたくさんあります。ことに、9・11の同時多発テロ以降は、テロ対策がどの国にとっても深刻な課題となってきています。もし、テロリストの手に核が渡った場合には、それぞれの国が「国益」などと流暢なことは言ってられませんからね。

Q: ところで、「arc世界連邦政府憲法」の基本原則とはなんですか？

A: 「arc世界連邦政府憲法 試案」の基本原則は以下の8項目です。

- 1、各国家の主権すべてを「世界連邦政府」に委譲する。
- 2、主権国家は、「州」となり、「世界連邦政府憲法」を最高法規として、新たに各州の法令を定める。
- 3、世界共通の通貨を発行する。
- 4、各国（各州）の軍備は全廃し、世界連邦政府軍を各州に配備する。
- 5、核を製造・保持・使用することを禁止する。
- 6、原子力は、いかなる理由があってもこれを認めない。
- 7、地球上のすべての人々に基本的人権を保障する。
- 8、地球温暖化対策に全世界をあげて取

り組む。

現在の国連では「世界政府」としての機能も憲法もないため、常にそれぞれの「国家の利害」に配慮し、重大な決定は、常任理事国の賛否によりすべてが決定されています。その決定が、地球の、また人類の未来にとって必須なことであるか否かではなく、それぞれの常任理事国にとり、また、経済力・政治力の強い国にとり、有益か否かが、その選択の基準となっています。ですからこの8項目の原則は重要なのです。

Q: しかし、今まで国際社会で強い発言力を持ってきた国々が、すんなりと「主権を世界連邦政府に委譲する」とは考えられませんが…。

A: もちろん、そんな簡単にはできません。しかし、「モントルー宣言」の時代から62年たった今日では、時代の流れが大きく後押ししています。ヨーロッパでは、EUなど国家の枠組みを超えた経済圏が次々と広がり、通貨統合なども実現しています。今年（2009年）9月国連本部で開催された「国連気候変動サミット」に出席した鳩山首相が中国の国家主席と会談した際には「東アジア共同体」を提唱しました。更に、その時、国連本部で演説したアメリカのオバマ大統領は「国を超えて核や地球温暖化の問題などを考えよう」と各首脳に熱心に呼びかけました。まさに、これからの時代は、むしろ「世界連邦政府」のようなビジョンを描くほうが時代の流れとしては自然なのではと考えます。

Q ところで、人々の心のよりどころとしての国の形はどうなるのでしょうか。

A: 「世界連邦政府」は、世界的な枠組みの変化ですから、それぞれの国は「州」という名に変わるだけで、個々にとっての故郷がなくなるわけではありません。